" KIDS SMILE LABO JOURNAL " IS A FREE PAPER PUBLISHED BY NURSERY KIDS SMILE LABO
TOPIC: 'HOW DO WE HAVE A GOOD RELASHIONSHIP WITH LOCAL PEOPLE? ' / 'HAVE MANY CHANCES TO FEEL GLAD TO" DO BY MYSELF" ' / 'WHAT IS THE INFLUENCE CAUSED BY ADULTS' WEARING MASK?'
PUBLISH: KIDS SMILE LABO PUBLISHING EDIT: AZUMI SUGITA WRITE: KAORU MATSUSHITA / TAKASHI MORI / AZUMI SUGITA
PHOTO: HIBINOSEKKEI + YOUJI NO SHIRO WEBSITE: KIDSSMILELABO.COM

KIDS SMILE LABO JOURNAL

"キッズ スマイル ラボ ジャーナル"

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

vol.02
2021
TAKE FREE

KIDS SMILE LABO の１枚。

副園長の森誉さんが選んだ、とっておきの１枚を紹介します！

"言葉がなくても伝わるもの"

近くに寄って行って自然と伸ばした手とそれを受け止めた手。
そこに会話があったわけではないけれど手から伝わる互いの気持ち。

子どもたちにとって手を繋ぐという行動は
大切なコミュニケーション方法の一つでもあり、愛情表現でもあります。

みなさんは手をつなぐとどういう気持ちになりますか。
また、どういう気持ちの時に手をつなぎたいですか。

好きな気持ちや安心感、嬉しさ。
言葉でなくても手から伝わるものってありますよね。

お子さんの手に触れることってどれくらいありますか？
手から伝わる愛情をお子さんにたくさん送る機会を
大切にしてもらえたら嬉しいです。

photo & text by morimori

JOURNAL TOPIC

01 地域とつながる保育って？
How do we have a good relationship with the local people?

02 自分でできる嬉しさ
Have many chances to feel glad to 'do by myself '

03 大人のマスク、子どもへの影響は？
What is the influence caused by adults 's wearing mask?

kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo KIDS SMILE LABO @kidssmilelabo @KIDS_SMILE_LABO

地域とつながる保育って？

キッズ スマイル ラボは、子どもたちが地域を感じて知って学び、地域とのつながりの中で育って欲しいという強い想いがあります。「具体的にどうやって？」、「子どもの反応は？」、「地域の反応は？」等、キッズ スマイル ラボの子どもたちの日常の様子をご紹介しながら、私たちが大切にしている「地域とつながる保育」についてお話したいと思います。

① おたまじゃくし池まで往復徒歩４０分！

だんだんと気温も上がり春らしい天気が続いていた、４月２３日。お散歩道の途中にある中村農園さんの前を通ると、池でエサやりをしている農家の中村さんの姿がありました。「見せてもらってもいいですかー？」と声をかけると、「いいですよー」とお返事。皆で池の前に集まり、エサやりの見学をした後、子どもたちにもエサやりをやらせていただきました。エサをあげると、子どもたちは「食べてる？食べてる？」と声を上げながら興奮した様子で観察をしていました。

そんなおたまじゃくし池のことを、中村さんは、「命に触れる場所」として大切にしています。小さなおたまじゃくしでも人間と同じように口があって必死にご飯を食べること、大きいのも小さいのも足が生えているのも色んなおたまじゃくしがいること、エサにウヨウヨと群がる様子は気持ち悪いこと、手に乗せてみると少しくすぐったいこと。本物の自然や生き物に触れるという実体験が子どもたちの感性を刺激しています。

大切に育てることをお約束して中村さんから頂いたおたまじゃくしは保育園の水槽で育てています。カエルになったら、もう一度農園まで行き、仲間のカエルの所に戻しています。

「カエルさん大きくなってね！」今日も往復４０分かけて、雨の日でも皆でお散歩に出かけます。

中村農園（なかむら　のうえん）
〒243-0014
神奈川県厚木市旭町２丁目

② できたてほやほやのパンをおやつに

キッズスマイルラボから歩いて5分程のあさひ公園の前に〈ルスルエルユニック〉というおしゃれなパン屋さんがあります。以前、みんなでお花見をする際にパンの注文をさせて頂いたことをきっかけに、キッズスマイルラボのおやつのメニューに加わることになりました！

おやつの時間に合わせて、パンを焼いてくれ、年長児がみんながスヤスヤと眠っている午睡の時間に受け取りに行っています。

「今日のおやつはパンだよ！」と声を掛けると、待ちに待っていましたとばかりにむっくりと起き上がる小さいお友達。まだほんのり温かいパンを嬉しそうに頬張っています。美味しいパンに毎回おかわり殺到で、モリモリと食べていますよ。

ルスルエルユニック
〒243-0014
神奈川県厚木市旭町1-21-8　102

③ 間引きした桃でシロップ作り

先日、水面さんの6名が、「井上としお桃園」へ間引きをした桃を頂きに行ってきました。まだ緑色の小さな桃ですが、香りは甘く、立派な桃。「これが桃なの？」「ももの匂いがするね！」と嬉しそうに袋に詰めていました。

その後は井上さんのご厚意で、ジャガイモ掘りとそら豆の収穫も体験させて頂きました。土の中にジャガイモを見つけると、「あった！」とすぐに手に取り、嬉しそうに見せていました。

初めてのバスの旅ですっかり疲れて帰ってくるかと思ったら、「ただいま、みて～！」と収穫してきた果実や野菜を興奮気味で見せてくれ、体験の様子を教えてくれる子どもたちでした。

翌日にはさっそく桃のシロップ作りとジャガイモ、そら豆を無水調理をして美味しく頂きました。桃のシロップはおやつでマフィンやフルーツポンチのシロップになったりと大活躍です。

桃の葉や枝は、エキスを抽出すると、肌に良いローションになるとのことで、こちらは子どもと洗って乾燥させ、焼酎に漬けていきます。エキスになったら、プールに入れて遊びたいと思っています。Youtube にて作っている様子を公開しているので、ぜひご覧くださいね。

貴重な体験をさせて頂き、子どもも大人も大満足な一日となりました。

井上としお桃園（いのうえとしお　ももえん）
〒243-0807
神奈川県厚木市金田727

④ こんにゃくができるまでを体験しました

キッズスマイルラボから大人の足で歩いて15分程にある、「飯田こんにゃく店」へこんにゃく作りの体験へ行ってきました。

到着すると、「いらっしゃい、よく来たね」と温かく迎えてくれた飯田さん。「こんにゃく糊が付くとベトベトになるからこれを着てね。」とお手製のビニールエプロンを用意をしてくれ、早速こんにゃく作りに挑戦しました。ゆでる前のこんにゃくはとても柔らかく、粘りもあり、「やさしくそーっと丸めてね。」と教えてもらうと、大きいお友達は真似をしてそーっと形を作っていました。まだ力加減の難しい小さいお友達はベトベトになりながらも、真剣な表情で、愛らしいこんにゃくに仕上がりました。

こんにゃくのゆで上がりを待っている間は、大きな板状のこんにゃくが機械で切られる様子を見学させてもらったり、飯田さん特製の「こんにゃくのおかか煮」を試食させてもらい、ご満悦な子どもたちでした。

自分たちで作ったこんにゃくはキッズスマイルラボへ戻ってから、キッチンで調理をしてもらい、「田楽みそ」で食べました。できたてホヤホヤのこんにゃくはプルプルで弾力がありとても美味しかったです！

飯田コンニャク店（いいだこんにゃくてん）
〒243-0002
神奈川県厚木市元町4-7

地域に見守られながら育つということ

近年は、弧育てと言われる言葉も生まれてしまうほど、核家庭で孤独を感じながらの子育てが多くなっています。弧育ての環境が続くと、心の負担が多くなり産後鬱などの悪循環が生まれるキッカケになってしまうと言われています。保育園ができる役割として、お母さんたちの育児相談等の子育て支援はもちろんなのですが、子どもたちが地域の方に見守られながら育つ関係づくりを育んでいくことも大切な子育て支援だと考えています。

地域の方に温かく見守られることで、この本厚木という場所への愛着も育まれますし、関わりの中で、あたたかく見守られた体験は子どもたちへとしっかりと伝わり、自分も同じようにその想いを誰かに届けたいという良い循環が生まれていきます。保育園と家庭以外で子どもたちに関わってくれる大人がいるということも、普段の保育活動では得られない刺激や学びに繋がります。

ここに挙げた活動以外にも、普段散歩をしている中で、声をかけて下さる方やあたたかいまなざしを向けてくださる地域の皆さまに支えられてわたしたちの保育が行えています。

本厚木に開園してまだ数か月ですが、この数か月の間にこんなにも地域の方に受け入れていただき、活動をさせていただけることに感謝の気持ちでいっぱいです。季節を通して、体験しながら学んでいくことを大切にしている保育園キッズスマイルラボでは、今後とも地域の方との繋がりを強く結んでいきたいと思っております。

大人のマスク、子どもへの影響は…？

コロナ禍の今、大人がマスクをして生活することが当たり前になり、
他の人と接触する際には必要不可欠なものとなりました。
マスクが乳児や幼児に与えている影響や、
キッズ スマイル ラボでの対応などをご紹介します。

〈参考〉エデュカーレ/2021.5 京都大学大学院教育学研研究科教授 明和政子(みょうわまさこ)

「乳児」にとってのマスク

乳児期は、目や耳で学び、言葉を獲得する時期です。視覚野や聴覚野の《感受性期》にあたるこの時期に、子どもたちは相手の表情を見たり、「おなかいっぱいだね」「ねむいね」などという声を聞きながら成長していきます。こうした経験を日々積み重ねていくことで、喜怒哀楽などの感情が理解できるようになります。

マスクで相手の口の動きや表情が見えないという状況は、視覚野や聴覚野の感受性期に、子どもたちから学習の機会を奪うことにつながるのです。

「幼児」にとってのマスク

今、幼児期を迎えている子どもたちは、視覚野、聴覚野の、感受性期には、いわゆるコロナ以前の生活を経験して育ってきた世代です。相手と大声で笑いあったり、密に触れ合い、もみくちゃになりながら育ってきた経験があります。彼らの中にはその時の記憶が残っています。

ところが、周りの人たちがマスクをするようになり、表情が見えなくなった今、コロナ以前に経験していた対人関係の心地よさを知っている分、これまでのように相手の表情を確認しながらコミュニケーションできないことに対する心的なストレスが高まっている可能性があります。

このように、発達の面からみても、マスクの着用は脳と心の発達に何かしらの影響を与える可能性を否定できません。

大人の対応はどうする？

大事なことは、できることをできる範囲で行うということ。マスクをした他者が当たり前の環境になっている今、限定された関係の中だけでもマスクを外したコミュニケーションを得られる時空間を子どもたちに提供していただきたいです。

たとえば、家庭内では、母親や父親が豊かに動く表情をコロナ禍以前よりも意識的に見せてあげることなども有効と明和先生は話します。

以前とは違った働きかけや援助が必要だということを改めて実感させられる記事でした。マスクを外せない今、保育の工夫も一層考えていかなければと思う限りです。

キッズ スマイル ラボではどうしているの？

先日、0歳児の子が担任がマスクを外した瞬間に泣いてしまうという事例がありました。普段慣れている保育者であっても、マスクの有無によって人見知りをしてしまったのです。

今やマスクが顔の一部として認識してしまっている子どもたち。「今回の事例に限らず、マスクが与える影響って大きいよね」と保育者間でも話をしています。

一歳を過ぎると子どもたちは絵本の読み聞かせや歌遊びで、大人の口元を見るようになります。口の動きや舌の使い方を見て習得し、発語に繋がっていきます。又、食事の介助では「もぐもぐ」と口の動きを知らせることや、「美味しいね。」「これはシャキシャキ音がするね」等と会話を楽しみながら一緒に食べることが食育となる保育の場。マスクや一緒に食べられない今は食育の難しさにも通ずることを感じています。

そこで、職員間で話し合い、キッズスマイルラボでは活動の様々な場面で、〈透明マスク〉を使用し、子どもたちに表情や口の動きを知らせていってみようということになりました。

ワクチン接種も広がりを見せ、マスクなしの生活まで、もう少しの辛抱だと思いますが、キッズスマイルラボでもご家庭でも今できることに最善を尽くせると良いですね。

KIDS SMILE LABO 園長の育ち合い note

NO.1 自分でできる嬉しさを味わうこと

子どもからは「かおちゃん」の名で親しまれている、KIDS SMILE LABO の園長。15 年の保育現場経験を経て、保育園 KIDS SMILE LABO を開園。趣味の畑作業を通して、日常的に自然に触れ、「地域」「家族」「自然」「仲間」と繋がることを自身のテーマとして日々追究している。

保育園 KIDS SMILE LABO
園長　松下 かおる

開園して２ヶ月で見られる成長

日々成長を見せてくれる子どもたち。入園した時はハイハイをしていた子も歩けることが嬉しくて園内をたくさん歩きまわっています。段差を降りる瞬間バランスを崩していた子は、今では段差がある事を感じさせないほど園内を自由自在に動き回っています。

2 歳児以上の大きな子たちは、お散歩開始直後はカートから降りて数メールでまたカートに乗っていましたが、毎日少しずつ距離を伸ばし自分たちの足で行って帰ってこれる距離が長くなってきました。

この 2 ヶ月の間に本当に子どもたちは様々な体験や経験を通して心も身体も豊かに成長していることを感じています。

パパ・ママに伝えたいこと

私は保育園を開園する前にお母さんたち向けに子どもの発達について、子育て講座をしていました。
その時にも皆さんにお伝えしていたことを今回はお伝えしたいと思います。とってもシンプルなことなのですが、「その子の力を信じて見守って、その子の力以上のことはなるべくしないでね」ということです。例えば、もうすぐ歩きそうな素振りが見えると私たち大人は嬉しくなり子どもの手を取り歩く練習のようにしたりします。（その気持ちもとてもわかります…）
しかし、歩きはじめるということは自分で立つところから身体のバランスをとり、立ったらそこから慎重に間合いを見ながら、一歩一歩と前に進んで自分の世界を広げていくのです。その時の、「どうだ！」という子どもたちの表情はなんとも言えません。

「自分でできた！」を積み重ねる

大人が先回りしてその体験を奪わず、子どもたちが「自分で出来た！」という瞬間を KSL の保育でも大切にしています。子どもたちには小さなことでも、日々の中で「自分で出来た！」という体験を積み重ねて、たくさんの自信を身に纏ってほしいと願っています。

続きは note で！子育てに役立つ情報を発信中！
園長 & 副園長が
子育て支援のための
note を始めました！
園長 松下かおる
副園長 森誉